第１回ワークショップとりまとめ（子育て支援拠点整備の課題）

利用方法

- 多くの世代が利用できる施設が望ましい
- 年齢制限があるため、兄弟一緒の利用が難しい
- 子育て支援拠点として、相談や交流ができる場所が必要
- 放課後の居場所づくり
- 天候や曜日・時間に左右されず好きな時に自由に利用できる
- 異年齢の子供同士はもちろん異世代が自然と集い交流できる居場所、仕組みづくりが大切
- つどいの広場、子育て支援センター、園庭開放とのすみわけ
- 子どもの遊び場の充実だけでは利用範囲が限定的
- 子どもの運動不足解消
- 環境が整備されていない
- 安心安全な環境で遊ばせたい
- いかに市民が利用したい場所にできるか
- 親も子も気分転換ができる空間

既存施設

- 既存の公園が意外と活用されていない
- 公共施設の削減が求められており、新しく作るより既存の公園の整備が優先
- 既存施設のリニューアルの検討
- 現状の施設は年齢制限があるので、利用できる期間が短い
- 既存の施設を改修、整備して利用
- 既存の公園や施設（つどいの広場、児童館）のサービスを拡充すべき
- のろしの里ふれあい公園は使われているシーンがほぼない
- 既存公園の改修、廃止を検討し、質が高く安全な公園に絞る

設備・環境

整備

- 安心安全で死角を作らない
- 安全性・衛生面と自由度の共存
- 大型遊具がない
- きれいで使いやすい公園整備
- 冬は寒冷で降雪がある地域のため、屋内遊び場が一緒に存在する場所が必要
- 地元企業とコラボして設備をグレードアップし、整備すべき

民間施設

- 魅力や特色がない
- 小学生以上の子どもが楽しく遊べる施設がない
- 安全面などの整備が重要
- 遊具や公園そのものが大自然の良さを生かしていない
- 就学前の子と小学生以上のニーズを満たしている設備、場所がない
- トイレやベンチなどを使いやすく常時清潔に管理すべき
- 安心・安全な公園整備
- 他市との比較ではなく、北杜市ならではの公園や居場所づくりが必要
- 様々な年齢の子供たちや保護者が、天候、時間に関わらず利用でき、満足できる場所
- 子どもが夢中になって遊べるものが欲しい
- どんな風に過ごしてほしいのかビジョンが明白に描けた公園や子育て支援施設がない
- 民間施設を活用し、利用料を市が補助すればよい
- 民間施設、民間団体との協働

情報

- 初めて行く人が行くきっかけが欲しい
- 公園の情報がHPに掲載されていない
- 公園の魅力の発信をすべき
- イベント開催などで周知、活用すべき
- 公園資料の情報・リサーチ不足
- 公園の差別化ができていない
- 市内にある公園の情報の周知

必要性

- 公園の数が少ない
- 新しい公園の必要性について疑問
- 市外の公園の利用が多い
- 公共施設の床面積削減を検討中なのに施設を増やす意味は
- ニーズ調査の利用頻度が月・年数回だけの利用者が７７％を占める
- 未満児からの入園率が高く利用は週末に限定されるので、市外を利用すればよい
- 子育て世代にとっては価値ある公園は移住の大きなポイント
- ニーズ調査の結果、利用頻度が少なく需要が低い
- 公園に関するニーズ調査なので、イコール公園を増やす材料にはなっていない
- 子育て支援拠点＝公園なのか
- 市の魅力は他にあり、市内に整備する必要がない

立地

- アクセスが良い場所（家、学校、保育園に近い場所）
- 歩いて行ける公園がない
- 小淵沢、長坂エリアに主な公園がない

その他

- 県内の公園や子育て支援施設を比較に挙げることは適切か
- 拠点整備にかける予算によってアンケート結果が変わる
- 既設の子育て支援施設の現状・課題分析が未実施であること
- 市のイメージする「子ども」が乳幼児や園児までのように感じるが、小・中・高校生も子どもである認識を持ち、公園や居場所づくりを考える必要がある
- 0～18歳が利用対象の児童館は、現状、小学生の学童代わりの機能しか果たしていない
- 子どもを増やすには移住者の増加が必要。そのため移住者へのアンケートが必要
- 公園整備の検討は、公共施設検討委員会で行えばよい
- 予算が見えない